

Q2 早期に見つける方法がありますか？

糸くずや虫の正体は？

明るいところや白い壁を見つめたとき、糸くずや虫のようなものが浮遊して見え、視線を動かすと移動する。暗い場所では見えなくなる……このような症状が現れるのが飛蚊症です。飛蚊症は網膜剥離のように病気の症状として起こるものもありますが、多くはとりあえず心配のない生理的なものです。

では、ふわふわ浮いて見える糸くずや虫の正体は何でしょうか。

硝子体には透明なコラーゲン線維が含まれていますが、加齢とともに不透明なものが生じます（硝子体混濁）。それが網膜に影を落とすため、糸くずなどが浮遊するように見えるのです。

また、硝子体は薄い袋（後部硝子体膜）に包まれています。加齢などにより硝子体がしぼんでくると、この袋にシワが寄ります。そのシワの柄も、糸くずなどの正体です。

ただし、糸くずなどが急に増えた場合は、できるだけ早く眼科を受診してください。

網膜剥離の初期に現れる症状に、小さな糸くずや虫のようなものが浮かんで見える「飛蚊症」があります。これは生理的にもよく起こる症状ですが、急に糸くずなどの量が増えた場合には注意が必要です。

また、実際には光っているものがないにもかかわらず、視野の端に閃光のようなものが見えたり、チカチカと光が点滅して見えたりすることもあります。これを「光視症」といい、暗い場所でもよく見えます。網膜が引っ張られたり、はがれたりする物理的な刺激が視神経に伝わり、脳がそれを光の刺激として受け取るため起こります。

網膜剥離が進行すると、視野の一部が欠ける視野欠損が起こります。さらに進行して剥離が及ぶと、突然、急激に視力が低下したり、視野のほとんどが欠けたりします。飛蚊症や光視症などの気になる症状がある場合は、できるだけ早めに眼科を受診することが重要です。

A 糸くずのようなものが見えたり視野に光が走ったら要注意

教えて
ドクター！



知っておきたい
健康相談室

前兆に気をつけよう！

網膜剥離

もうまくはくり 網膜剥離というと、ボクサーをイメージする方が多いのでは？

ところが、実はもっと身近で、誰にでも起こりうる病気なのです。

進行すると失明のおそれもありますが、早期に治療ができれば、見え方に大きな障害を残さず回復することができます。早期発見のポイントを知って、大事な目を守りましょう。



監修 鈴木利根

すずき・とね
医療法人 ひかり眼科院長（埼玉県吉川市）
日本大学医学部卒業後、同大学板橋病院眼科入局。米国 Johns Hopkins 大学、Wilmer 眼研究所客員研究員を経て、1989 年より獨協医科大学越谷病院（現・獨協医科大学埼玉医療センター）眼科勤務、2008 年同教授就任。2019 年 4 月より現職。長年のキャリアをもとに、地域の人々の目の健康増進に日々努めている。

Q3 どのように治療するのですか？

どんな検査をするの？

網膜剥離を診断するためには、次のような検査が行われます。



OCT 検査

網膜の断層画像を撮影する検査です。若い人に多い軽度な網膜剥離や、黄斑部に剥離が及んでいるかどうかをレーザー光を使って調べます。

眼底検査

検眼鏡という機器を使い、瞳孔から光を入れて観察します。その際、瞳孔を広げる点眼薬を使います。

超音波検査

硝子体出血などのため、眼底が観察できない場合に行います。

視野検査

自動視野計を用いて、視野の欠けがないかを調べます。

網膜がはがれている場合は、次のような手術が行われます。

▼強膜バックリング手術
眼球外側の強膜（白目）の上に小さなシリコンスポンジやバンドを縫いつけて眼球を内側にへこませ、はがれた網膜を再密着させる手術です。多くの場合、後部硝子体剥離（Q1 参照）が

網膜裂孔の段階で見つかった場合は、孔の周囲をレーザーで焼き固める「レーザー光凝固術」が行われます（外来で受けられます）。点眼麻酔をして行い、痛みはときどき感じる程度です。

網膜がはがれている場合は、次のような手術が行われます。

▼硝子体手術

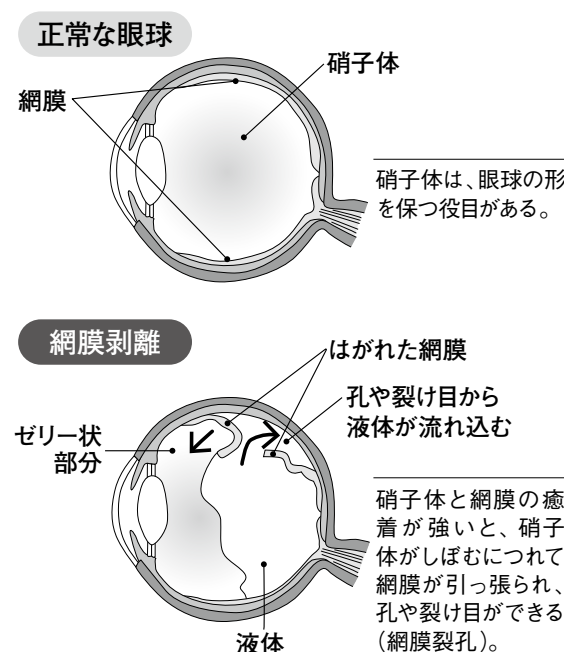
眼球内に手術器具を挿入し、網膜と硝子体の癒着を切り離します。その後、眼球内に空気や特殊なガス、シリコンオイルを注入し、その圧力で網膜を押しつけ、元に戻します。そのため、術後はしばらくうつぶせや横向き姿勢を保つ必要があります。また、白内障の手術を同時に行うこともあります。

手術は早期に受けるほど視力の回復が期待できるため、症状に早く気づくことが大切です。

A はがれた網膜を治すには手術が必要になります

Q1 網膜がはがれる原因は？

網膜剥離が起こるしくみ



目をカメラにたとえると、水晶体はレンズ、網膜はフィルムに相当します。網膜は光をキャッチする視細胞が集まった薄い膜で、はがれると視細胞が働けなくなり、見え方に異常をきたします。網膜剥離の主な原因は、次の2つです。

▼加齢
眼球の内部は、無色透明なゼリー状の硝子体で満たされています。硝子体は加齢にともないゼリー状部分と液体部分に分離し、ゼリー状部分がしぼんで、眼球の前方に向かって縮んでいきます（後部硝子体剥離）。このときに網膜が引っ張られて孔があくと、そこから網膜下に液体が流れ込み、網膜がはがれます。こうした変化は、50代くらいから起こりやすくなります。

▼強度の近視
強い近視の人は網膜の変性や円孔がみられたり、硝子体の変化が若いうちから起こりやすくなったりします。

そのほか、アトピー性皮膚炎によって目の周囲をかくことや、目の打撲などが原因になることもあります。

A 主な原因は加齢と強度の近視 目の打撲から起こることも